

3.敷地

今回、敷地は観光客と地域住民の交流が想定できる「広島県尾道市」と「長野県松本市」を提案する。二か所の違った地域特色を生かした風人造りを見てほしい

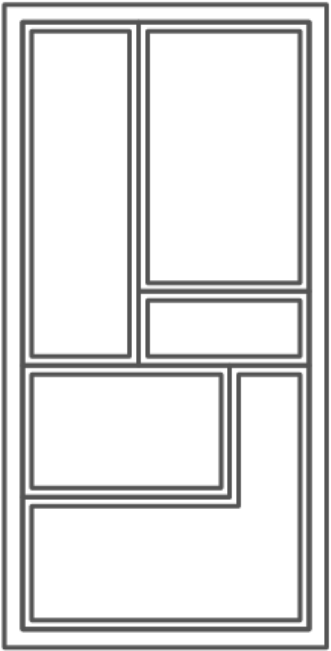


Pattern1.共通

土曜日の日中、毎週開催されている小学生以下対象の学習塾に子供たちとその親が施設に集まっている

施設にいるのはもちろん学習塾の生徒の子供たちだけではない。縁側で風鈴で風を感じる子供たちもいるが勉強中の子供たちにはノイズになるかもしれない。そこで西側の縁側は教室とはあえて壁で隔たれている。風を通しながらも遮ったりうまく使いこなして人それぞれの快適な空間を生み出す

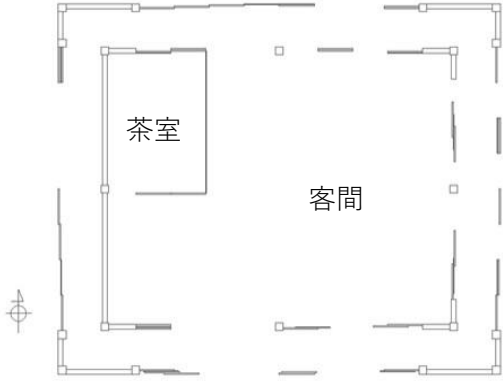
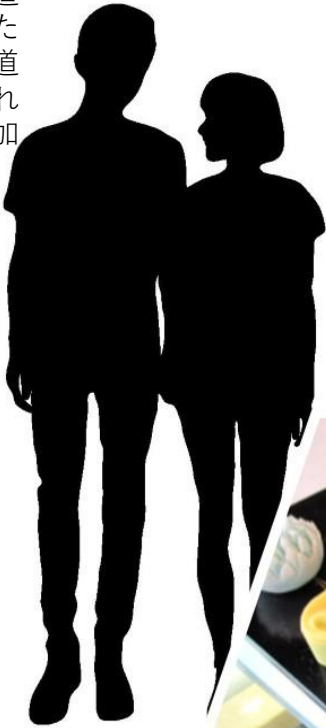
今日、尾道市と松本市は最高気温を観測した。子供たちは教室を快適な空間にするため種類の違う戸動かして風を操ることを学びながら快適な空間を生み出す



Pattern2.尾道市

フランス人のエルナンデス夫妻はパリで洋菓子店を営んでいる。彼らは瀬戸内海を中心に日本旅行を楽しんでいた。尾道市に観光来ると柑橘を使った和菓子が有名だと聞いて、尾道市内の生涯学習施設で開催される茶道体験会に飛び入りで参加した。

今回は茶室と客間を図のように分ける。千利休が広めた二畳ほどの茶室を戸で風を操って再現する。



Pattern3.松本市

タイ人のチェンさんは日本に一人旅で来た。松本市の城下町を散策していた彼女は売られていたかわいらしい食器に目が留まる。松本漆器だった。松本市内の生涯学習施設で世界に一つだけの漆器を作れる体験会があるのを聞いて参加することにした

漆器作りに欠かせないのは「湿度」程よい湿度の部屋で作られた漆器は固まるのが早く扱いやすくなる。今回は図のように風を操ることで漆器作りにとって最高の空間にした。

